

有明工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	体育実技
科目基礎情報						
科目番号	0062		科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	機械工学科		対象学年	4		
開設期	前期		週時間数	前期:1		
教科書/教材	イラストでみる最新スポーツルール（大修館書店）					
担当教員	井上 仁志					
到達目標						
1．基本的なソフトボールの技術を身につけることができる 2．ベースボール型のスポーツの特性を理解できる 3．作戦を活かした攻防を展開してゲームができる						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	ベースボール型のスポーツの特性を理解し、基本的なプレーがゲーム中にできる．		ソフトボ ールルのルー ルを理解で き、10m 程度で あれば 意図したところに投げ ることか て きる．		ソフトボ ールルのルー ルを理解で きず、10 m程度で も意図したところに投げ ることか て きない．	
評価項目2	ベースボール型のスポーツの特性を理解し、ポジションに応じたプレーがゲーム中にできる．		ソフトボ ールルのルー ルを理解で き、20m 程度で あれば 意図したところに投げ ることか て きる．		ソフトボ ールルのルー ルを理解で きず、20 m程度で も意図したところに投げ ることか て きない．	
評価項目3	ベースボール型のスポーツの特性を理解し、作戦に応じたプレーがゲーム中にできる．		ソフトボ ールルのルー ルを理解で き、バ ント など か て きる．		ソフトボ ールルのルー ルを理解で きず、バ ント など 意図したとこ ろに打つことか て き ない．	
学科の到達目標項目との関係						
学習・教育到達度目標 A-1						
教育方法等						
概要	近い将来社会人になることを考え、個人のトレーニングと併せ社会性の 育成を確立させる為に、運動量のあるチームスポーツに親しみ、職場にお ける人間関係を円滑にする面や生涯スポ ーツの面からもレクリエーションスポ ーツに精通し、将来的に余暇を利用し、スポ ーツに興し ることか て きるようにしたい.更に運営や審判など か て きるようにし、スポ ーツを通して共同、責任、リーダー シップ 等を身につける．					
授業の進め方・方法	実技中心に進めていく ルールテスト、実技テスト有り					
注意点	実技テスト評価 80%、小テスト評価 20%で 総合評価とする					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	シラバ ス説明		シラバ スの内容を説明で きる	
		2週	新体カテスト、集団行動		自分の現在の体力を確認で きる、号令に合わせ て (集団で)行進や方向転換など か て きる	
		3週	新体カテスト、集団行動		同上	
		4週	ソフトボ ールルール説 明、キャッチボ ール		ソフトボ ールルのルールを理解で きる、自分の意 図したところに投げ ることか て きる	
		5週	キャッチボ ール ゴ 口捕球、フライ捕球		自分の意図したところに投げ ることか て きる 正しい形で 捕球で きる	
		6週	キャッチボ ール、ゴ 口捕球、フライ捕球、バ ッテイング		自分の意図したところに投げ ることか て きる 正しい形で 捕球で きる 自分の意図したスイング か て きる	
		7週	キャッチボ ール、ゴ 口捕球、フライ捕球、バ ッテイング		同上	
		8週	実技テスト		自分の意図したスイング か て きる	
	2ndQ	9週	バ ッテイング、ゲ ーム		自分の意図したスイング か て きる、メンバ ーと協力してゲ ームか て きる	
		10週	バ ッテイング、ゲ ーム		同上	
		11週	バ ッテイング、ゲ ーム		同上	
		12週	バ ッテイング、ゲ ーム		同上	
		13週	バ ッテイング、ゲ ーム			
		14週	実技テスト			
		15週	ゲ ーム		メンバ ーと協力してゲ ームか て きる	
		16週	ゲ ーム		メンバ ーと協力してゲ ームか て きる	
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
分野横断的能力	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	周囲の状況と自身の立場に照らし、必要な行動をとることができる。	1	
				自らの考えで責任を持つてものごとに取り組むことができる。	1	
				目標の実現に向けて計画ができる。	1	
				目標の実現に向けて自らを律して行動できる。	1	

			日常生活における時間管理、健康管理、金銭管理などができる。	1	
			社会の一員として、自らの行動、発言、役割を認識して行動できる。	1	
			チームで協調・共同することの意義・効果を認識している。	1	
			チームで協調・共同するために自身の感情をコントロールし、他者の意見を尊重するためのコミュニケーションをとることができる。	1	
			当事者意識をもってチームでの作業・研究を進めることができる。	1	
			チームのメンバーとしての役割を把握した行動ができる。	1	
			リーダーがとるべき行動や役割をあげることができる。	1	
			適切な方向性に沿った協調行動を促すことができる。	1	
			リーダーシップを発揮する(させる)ためには情報収集やチーム内での相談が必要であることを知っている	1	
			法令やルールを遵守した行動をとれる。	1	
			他者のおかれている状況に配慮した行動がとれる。	1	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	20	0	100
基礎的能力	80	0	0	0	20	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0